甲斐市立竜王北小学校 学校関係者評価書

令和6年2月9日（金）
甲斐市立竜王北小学校 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

○ 実施日：令和6年2月7日（水）
○ 委　員：学校評議員：輿石正寛，小宮山千雪，小川啓介，田中美幸
校長：坂本公彦，教頭：志村征俊，主幹教諭：保坂修男

Ⅰ 学校側から提案された内容
（教職員自己評価を中心に）
1 達成状況について
2 改善策について
3 まとめ

Ⅱ 協議された主な内容
○学校経営について
学校経営方針や学校教育目標に基づいた教育活動を行っているとした教職員の割合が高い。一方，PDCAサイクルで教育活動が取り組まれているについて，A評価が60%を下回っており，他の項目より低くなっていることから，その趣旨や目的を再確認していく必要がある。
また，特別支援教育についての統一した意識や連携体制の充実が十分でないと考える職員が少なくない。

○学校運営について
適切な情報管理の下で，報告・連絡・相談等の情報共有がなされ，共通理解をもって協働体制の中で教育活動が展開されている。危機管理マニュアルの理解については，引き続き危機管理に関する共通理解や危機対応実践力の向上について取り組む必要がある。校務支援システムについては，その活用が進んでいる。また教職員の働き方改革も意識の上では浸透してきていると言える。

○学習指導について
質の高い教育を目指し，確かな学力を育成することに一定の成果を見出していることがうかがえる。しかし，一部児童が学校の授業が楽しくない，授業が分からないとしていることを受け止め，今後も「わかる授業，楽しい授業」づくりに向け，教師の授業力向上や，きめ細かな指導体制の充実を図る中で，学校全体として学習指導の力を高めていく必要がある。また，読書に親しむ時間を確保するとともに，読書の楽しさに触れる活動を充実させ，自ら読書に親しむ習慣を身に付けさせたい。

○生徒指導について

教師が児童一人一人を見つめて丁寧に対応し，学級集団づくりに取り組んできた。キャリアパスポートの有効活用については，多くの教員がいまだ手探りの状況であると言える。ユニバーサルデザインの視点で，学習規律や生活規律を整え，だれにとっても分かりやすい授業や，当たり前のことを当たり前にできる児童の育成に努めてきた。

○地域との連携

地域人材や外部指導者を招いての学習機会は昨年度よりも増えた。今後も引き続き地域との連携・協働について検討していく。また学校ホームページや各種おたより等を活用した情報発信に努めてきた。保護者アンケートのＡ評価は昨年度よりも上昇したが，依然として低い傾向がある。

○学校の特色に関して

「ユニバーサルデザイン」「ノーチャイム制」「『広場の時間』の活用」「モジュール学習」について，一定の成果が得られている。これら本校の特色としてあるものは，今後も共通理解のもとで取り組んでいく。

○創甲斐教育について

学習指導要領の適切な実施を通して学校教育目標の実現を図ることで，創甲斐教育が掲げる「国語力」「自己表現力」「体力」の向上に迫っていく。

<学校関係者評価書>

Ⅰ 全体評価

A評価のみを見れば低いものもあるが，B評価を含めた肯定的評価はどの項目も高い数値となっているため，教職員は胸を張って今後も教育活動に取り組んでほしい。保護者アンケートや児童のアンケート結果を見ても，肯定的評価が多く，安心した。学校行事への参加状況を見ても，保護者の学校への関心の高さがうかがえる。

肯定的な回答率が高い項目については更なる向上を目指すとともに，肯定的な回答率が低い項目については，その理由や実態を明らかにし，改善を図る必要がある。

Ⅱ 特 徴

<学校教育目標・学校経営について>

○教職員自己評価の結果から，学校経営方針に基づき，個々の教職員がしっかりとした問題意識を持ち，全体で課題を明確化し取り組んだことがわかる。いじめや不登校など，児童一人ひとりの課題に応じた対応に努めることができている。

○特別支援教育については情報共有を密にして進める必要がある。

<学校運営について>

○今年度も引き続きコロナ対策の中で中止や変更になった行事も多いが，運動会等実施できた学校行事を通して，子ども達の成長につながる取り組みができている。

○校内OJTを推進し，若手教員には経験豊富な先輩教師が実際に一緒にやって見せながら教えていくことも必要。若手は様々な学校運営における知恵を学び取っていってほしい。

○「危機管理マニュアルを理解している」のA評価の値が低いことが懸念される。危機管理マニュアルをワンペーパー化する等の工夫を図るとともに，危機管理に関する共通理解や危機対応実践力の向上にさらに取り組む必要がある。

<学習指導について>

○学校教育の中心は学習指導である。ICT機器等，従来の一斉指導とは違った方法や環境の中で，子どもたちは深く学んで育っている。児童は表情豊かに楽しく学んでおり，みんなで考え，みんなの考えを共有し，学びを深めている様子がうかがえた。

○ICT機器の活用について，タイピング等のスキルにおける個人差が心配になる。児童が楽しみながらスキルを獲得できるよう引き続き指導していってほしい。

○学習についての項目でC，D評価をつけた児童や学習の定着に不安を感じている保護者がいることから，引き続き教師の授業力向上やきめ細かな指導体制の充実を図っていく必要がある。

<生徒指導について>

○課題を抱えた児童について，全教職員で共通理解をし，同じ歩調で対応していってほしい。

○今後も児童とのコミュニケーションを深めながら信頼関係を築く中で，問題行動の未然防止や早期発見，早期対応を図っていくことが大切。

<地域との連携について>

○ホームページやお便りでの情報発信も引き続き進めてほしい。地域の学校として地域の方々に学校を理解いただくことは，地域との連携につながる。

○様々な活動を通して，地域教材や地域人材を教育資源として取り入れ，地域の教育力をいかしていってほしい。

<学校の特色について>

○学校の特色ある教育活動として，「ユニバーサルデザインを意識した環境整備」「広場の時間の活用」「モジュール学習」等を引き続き有効活用していってほしい。

<創甲斐教育について>

○創甲斐教育の目指すところと，学校教育目標の目指すところは一致しているので，今後も，児童の健全育成に向けて，教育活動の推進をお願いしたい。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

○PDCAサイクルを通した教育実践と評価の具現化。

○危機管理マニュアルのワンペーパー化等の工夫と安心・安全な学校づくりの推進。

○ICT機器の積極的な利用と，一人一人が活躍し，自己肯定感の高まる授業づくり，「わかる授業，楽しい授業」づくりの推進。

○教職員の共通理解のもとで，歩調を合わせた特別支援教育や生徒指導の充実。

○教職員が子どもたちと向き合う時間と心の余裕を確保するための業務改善，働き方改革の推進。

○いじめ等の早期発見と対応等，自己評価で課題のあった項目について，教職員の資質向上と意識改革の推進。

○学校ホームページや学校・学年だよりでの積極的な情報発信による地域連携の推進。

※特記事項 特になし

記載責任者 竜王北小学校学校関係者評価委員 田中 美幸 印